

JICA事業で 参加型農村調査

より良い生活へ視察

三沢にチリ研修生5人

川岸三沢に二十九日
から三日間、JICA



区民農園を視察する研修生

(国際協力機構)のチリ国先住民コミュニティ農家経営向上プロジェクトの研修生ら五人が訪れ、「農と人とくらし研究センター」の片倉和人代表を講師に参加型農村調査を行った。

自分たちでデータをとり、問題を見つけ出して議論をすること、生活をより良くす

るためのビジョンを作ることが主な目的。初日に三沢区コミュニティ施設を出発し、徒歩で真福寺、熊野神社、区民農園、棚田などを視察。その後、良いところ、悪いところ、「もったいない」と思うところについて意見を出し合い、地図にまとめた。

エリカ・フィッレルさんは「神社やお寺が身近にある感じ」と。ハビエル・バスケスさんは「曲がりくねった道やかわらぶきの屋根など独特の風景が魅力的」と三沢の印象を話した。カロリナ・ハラさんは「地域の人が環境に配慮して、それを最大限に生かそうとしてきたのが分かる」と。

「もったいない」と思うものについては「無人の家が多い。養蚕の資料館にするなど利用法を考えたら」、「公有

林を開発して、もっと

区民が活用できるようにすれば」などの意見

が出された。